

トロピーの増大を最小限にしつつ、集合体としての機能を發揮し、系内部のエントロピーを減少させているように見受けられる。

### 自主的改良が困難

多様性は種と種の間に関係ばかりでなく、個々の種の遺伝子の中にも潜んでいる。野生植物の時代から数千年もの年月を経て育まれてきた栽培植物は、その遺伝子自体の中に、多様な環境に適應してきた歴史を秘めている。

少数の品種が大規模・大面積で栽培され、農民による自主的な品種選択と改良が非常に困難な現代の農業で、多くの在来品種が失われていくことは危機的なことである。現代、普及している野



帯広農業高校の実習圃場

菜や花卉などの優良品種の多くはF<sub>1</sub>雑種であり

優良な形質を示すのはその代限りである。遺伝子組み換え品種でも同様である。

開発者の利益を守るため、これらの品種は生産者が勝手に自家採種して増殖させることは許され

ていないし、不可能なように育種されている。

従来、新しい品種は農家自らが圃場のなかで見出して育種してきた。これにより作物自体にとっても多様な環境に適應して進化することが可能となった。最先端のバイオ技術による育種も大切に